

容器包装リサイクルのフローの透明化等に関する検討会について

1. 設置趣旨

- 容器包装の利用事業者や容器の製造等事業者、消費者等に一定の役割を担わせることとしている容器包装リサイクル法のシステムでは、消費者の分別排出が欠かせず、また、容器包装リサイクル法に基づく分別収集とリサイクルの進展に伴い、消費者のリサイクルへの意識は年々高くなっていることから、プラスチック製容器包装を始めとした容器包装のリサイクルについて、更に信頼性を高めていくことが重要である。

- こうした観点から、容器包装リサイクルのフローの透明化等に関する検討会を設置し、再資源化の流れの透明性の向上等に関する課題及び方策を検討し、一定の結論を得ることとした。

- 検討内容は以下のとおり。
 - ① リサイクルの流れの実態の把握
 - ② リサイクルの流れを透明化することが必要な範囲及びその方法
 - ③ 容器包装リサイクル製品の一層の活用
 - ④ 関係者の役割の在り方

2. 検討状況

- 検討会の開催状況
 - ◆第1回（平成20年7月30日（水））
 - 議題：① 容器包装リサイクルのフローの透明化等に関する検討会での検討の進め方について
 - ② その他
 - ◆第2回（平成20年12月9日（火））
 - 議題：① プラスチック製容器包装の再商品化に関する実態調査結果について
 - ② 容器包装リサイクルのフローの透明化等に関する検討会 今後の検討について
 - ③ その他
 - ◆第3回（平成21年3月16日（月））
 - 議題：①（財）日本容器包装リサイクル協会におけるプラスチック製容器包装の再商品化に係る確認について
 - ②容器包装リサイクルのフローの確認と情報公開の在り方について
 - ③その他

○第1回検討会后に、再商品化事業者に対してプラスチック製容器包装の再商品化に関するアンケートを実施し、第2回検討会では、アンケート結果を踏まえた今後の検討課題について議論が行われた。また、今後の進め方については、本年夏までに中間取りまとめを行い、その後、実施できるものから速やかに実施することとなった。

○第3回検討会では、情報提供や情報公開の範囲等に関する消費者アンケートの結果及び容リ協会で行われているデータの確認と公表について報告するとともに、リサイクルのフローの確認と情報公開の在り方について議論が行われた。具体的には、確認と情報公開のそれぞれについて、以下のような論点について議論を行った。

(確認について)

- ・どの主体にまで、リサイクルしたかの確認が必要か。それぞれの主体ごとにどのような内容を確認する必要があるか。
- ・上記のフローの確認作業の担保措置はいかにあるべきか。

(情報公開について)

- ・フローの確認のために得た情報をどこまで公開する必要があるか。消費者等の信頼性向上を図るためにどのような情報が求められているか。
- ・消費者等の信頼性の向上と再商品化製品の利用拡大のバランスを図る観点から、どこまでの情報公開が可能か。
- ・情報公開を促すため、再商品化製品の利用によるメリットとしていかなる措置があるか。

容器包装リサイクルのフローの透明化等に関する検討会
委員名簿

＜常設委員＞

- 安井 至（国際連合大学名誉副学長・東京大学名誉教授）＜座長＞
織 朱實（関東学院大学法学部教授）
崎田 裕子（ジャーナリスト・3R推進マイスター・環境カウンセラー）
佐々木五郎（社団法人全国都市清掃会議専務理事）
辰巳 菊子（社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会理事・3R推進
マイスター）
中村 昌史（大阪府池田市市民生活部環境事業室クリーンセンター所長）
服部美佐子（容器包装の3Rを進める全国ネットワーク事務局）
平尾 雅彦（東京大学大学院工学系研究科教授）
松波 淳也（法政大学経済学部教授）
馬奈木俊介（横浜国立大学経営学部准教授）
森口 祐一（国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センター長）

＜プラスチック関係臨時委員＞

- 安達 肇（福井環境事業株式会社代表取締役）
勝山 剛頼（飯山陸送株式会社常務取締役）
近藤 博俊（新日本製鐵株式会社技術総括部資源化推進GL（部長））
濱 利治（株式会社広島リサイクルセンター総務部長）
平野二十四（容リプラ利用事業者協会会長）
八木雄一郎（明円工業株式会社環境資源部苫小牧工場長）

※オブザーバー 石井 節（財団法人容器包装リサイクル協会専務理事）